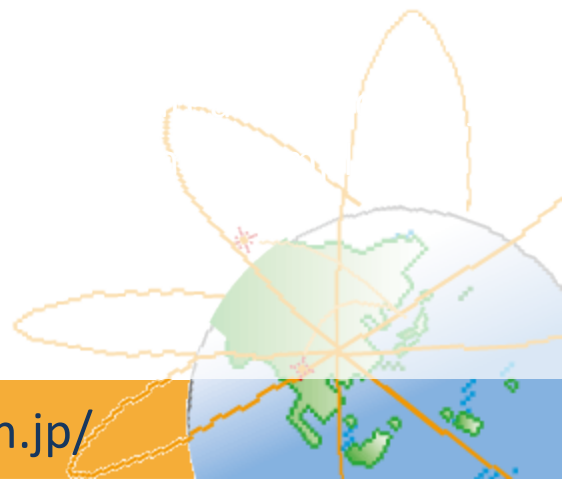


歴史的PIアドレス割り当て組織の 利用実態と今後の供給見込み

サイバーエリアリサーチ株式会社
風間 勇人



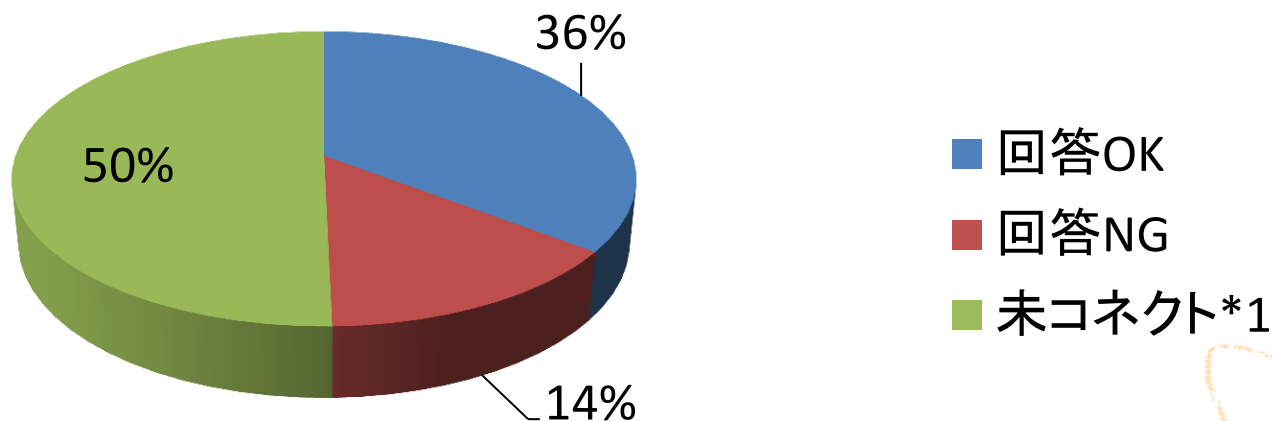
歴史的PIアドレスは
IPv4アドレス枯渇対策として
どのくらい期待できると
思いますか？



▶ アンケートご回答状況

- ▶ クラスB以上の歴史的PIアドレスを割り当てられている組織427社に、電話を中心にアンケートのご協力をお願いしました。

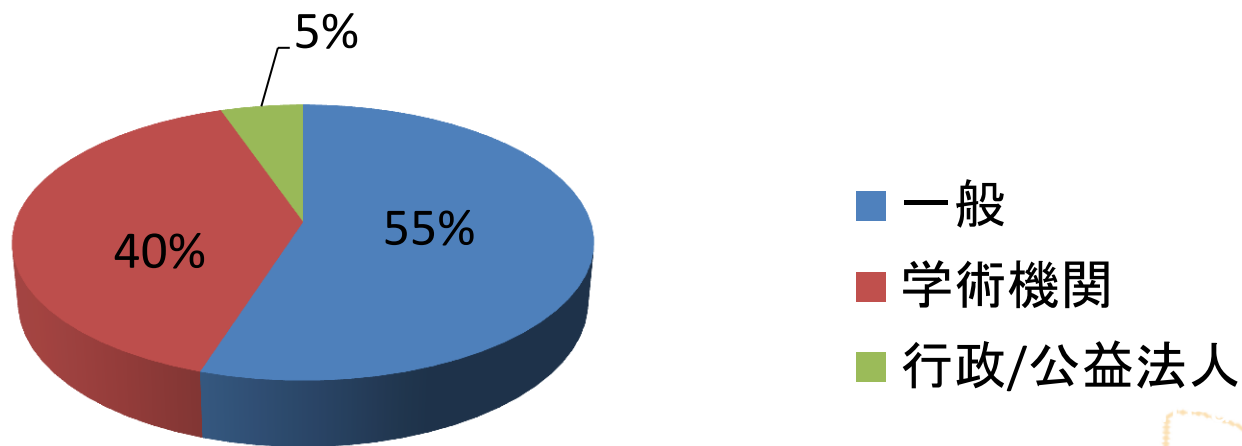
※アンケート期間：2012年6月25日～8月29日。+a



*1：担当者に繋がらなかったり、連絡先が分からなかったもの。

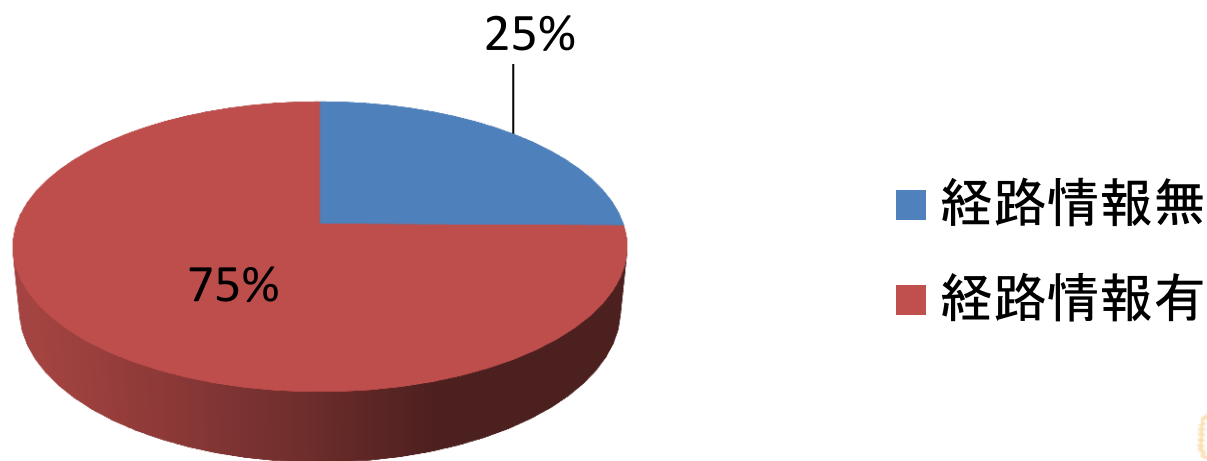
▶ ご回答頂けた組織の分布

- ▶ 行政や独立行政法人、公益法人様からもご回答頂きました。



▶ IRRへの経路広報(回答OKのみ)

▶ RADb*₂及びJPIRR*₃にて検索し確認しました。

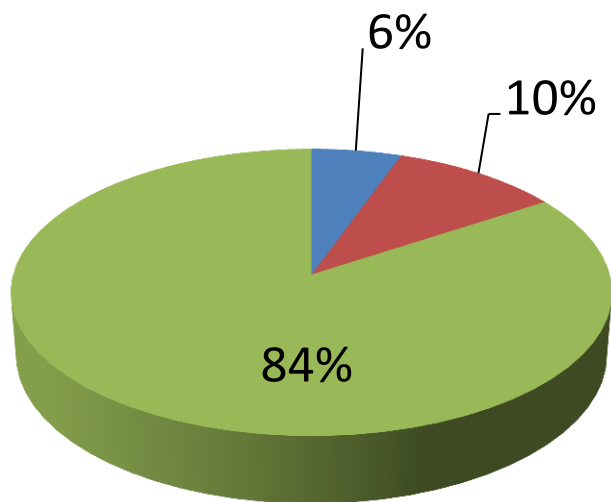


*2 : <http://www.radb.net/>

*3 : <http://www.nic.ad.jp/ja/ip/irr/>

▶ ご利用状況

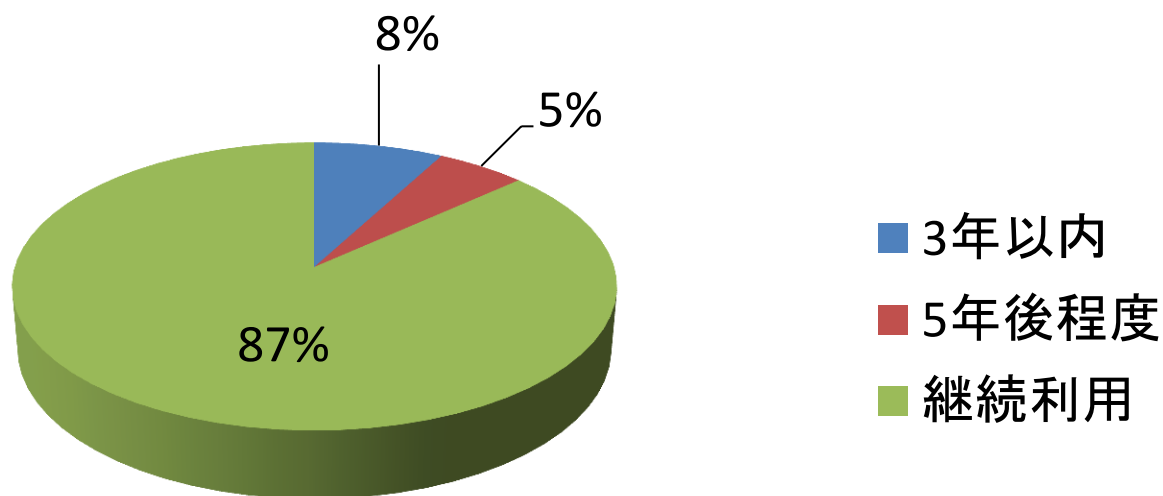
- ▶ 2012年3月31日迄に返却しなかった組織には、返却しない/出来ない理由があるようです。



- 殆ど使っていない
- 贅沢に使っている
- しっかり使っている

▶ 移転/返却見込み

- ▶ アンケート時点での回答の為、既に移転/返却手続きを進められている組織も含んでおります。



▶ アンケートを振り返って

- ▶ ① 歴史的PIアドレスは経路広告がされていなくても実際には使われている。
- ▶ ② IPv6アドレスがIPv4アドレスと同程度のリスクで運用できるようになるまではIPv4アドレスは使い続けられる。
- ▶ ③ IPv4アドレスを多く保有することに対してデメリットが大きくなる限り、手放されない。



▶ 今後の供給見込み

- ▶ ① 歴史的PIアドレス割り当て組織からの移転
- ▶ ② 既存事業者からの移転
- ▶ ③ Inter-RIR間の移転

